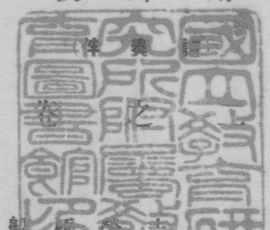


女子音樂教科書

教師用



編者 吉野 榮
二 藤 俊 內

大阪開成館版



春と少女

犬童球溪

一、春は静に来る来る
来るきたる 雪の深山を越えて越えて
越えてこえて

嬉し友よ 樂し友よ

歌へ躍れ 二度と訪はぬ

若きこのよの青春を 歌ひてをどれ。」

二、我等少女の春を春を
讚へ歌ふか汝も汝も
汝も汝も

小鳥舞へば 胡蝶をどる

歌へ躍れ 二度と訪はぬ

若きこのよの青春を 歌ひてをどれ。」

【大意】

一 雪の深山を越えて春は静にやつて来ました。嬉しいわねえ、楽しいわねえ、春が来たのよ。あ、皆さん、歌ひませうよ、踊りませうよ。それに私達の青春も二度とはやつて来ないのよ。私達は若い。この世は私達のものよ。さあ皆さん、私達の青春を歌ひませうよ。踊りませうよ。

二 私達の乙女の春を讀へてくれるの、歌つてくれるの、小鳥達も胡蝶も舞つてゐるわねえ、踊つてゐるわねえ。さう、さう、私達も歌ひませうよ、踊りませうよ。私達の青春は二度とはやつて来ないのよ。私達は若い。この世は私達のものよ。さあ皆さん、私達の青春を歌ひませうよ、踊りませうよ。

【語釋】

深山 奥深い山。
二度と訪はぬ 二度とは廻つて来ない、尋ぐも惜しむべきといふ意。

竹

生田 春月

一、うららにさすまど

わか竹しげるよ

のびたりきのふも

けふまたのびたり

若き日おもひを

心はあかるく

ひと本吳竹

ふりくる白ゆき

しづかにおとだつ

人の世なやみは

やさしくしのびて

みどり深く

ひかるはずゑ

朝のそらに

窓のまへに

なほくのばし

生きなこの世。」

にはのなかに

楚々とたてり

つもるにはに

まどのまへに

たえずあれど
生きなこの世。」

【大意】

一 日の光は麗に窓にさしてゐる。緑濃く茂つてゐる若竹の葉末が日に光つてゐる。若竹は昨日も朝の空に伸び上つた。今日も亦伸び上つたやうだ、窓前で。あなた方もこの若竹の様に、若き日の理想を真直にのばして、心を明るく人生を生き給へ。

二 雪は音もなく静に庭に降つてゐる。この降り来る白雪の種る庭に、静にばさ／＼と音して雪降る窓のまへに、吳竹は楚々と立つてゐる。人生の構みは誰にだつてあらうが、庭の吳竹のやうにやさしい心になつてその檻に堪へて、人生を生き給へ。

【語釋】

吳竹 葉が細かくて節の多い竹。
楚々と あつさりとした趣のあるものの形容。
おとだつ 音をたてる。

春と少女

Moderato.

ドイツ 歌曲

春
と
少
女

1. ユルキハノシヅカニキタル
 をきたらへミヤマのワコエを
 はるを

2. わたしたはウタをうたふのかはなれを
 はるを

12. テコエテウレシトモヨタノシトモコウタ
 なれもこごりまへばこてふをぶるうた

へハラドレニドトトハユワカキコノヨの
 をどれにびごごはぬわかきのよの

ハルヲウタヒテドレ
 るをうたひてをどれ

一〇六 (生徒用八二)

子守唄

Adagio.

J. Brahms.

子
守
唄

1. トロリ トロリ オーネネシ
 ごろり ごろり おねねし

ナ オヤマ ニハ ユキガフル トホ
 な おやまに は おごもだち ゆめ

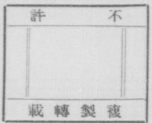
イ オヤマ ヤノ オヤマ コエ
 の こごり ゆめの おうま かは

テ ユケバ ユメ ノ オ ヤ ド
 い かはい ゆめをむすぶ

一〇七 (生徒用八四)

K2317

昭和八年五月廿五日印刷
昭和八年六月一日發行



中等女子音樂教科書教師用 卷之二
定價金壹圓五拾錢

編纂者 內藤 俊二

發行者兼印刷者 三木 佐助

發行所 大阪開成館
會社名 大阪市東區北久寶寺町四丁目四十四番地
振替口座大阪七九番

大阪市東區北久寶寺町心齋橋筋角

三木樂器店
振替口座大阪七九番

東京市日本橋區吳服橋二丁目五

林平書店
振替口座東京二七一番

發賣所